

## 再発見 タックル

タックルを通して simple & easy な面白いラグビーについて考えました。

フットボール中にボールを持って走るという出来事からラグビーが誕生し、ボールを持って走るという攻撃行動に対して、equal condition で戦うという原理によって対する防御対応行為が認められ、捕まえて攻撃を止める行為が、「申し合わせ」としてゲームがすすめられました。その時その場の申し合わせが CASE LAW として定着していきましたが、一定のものではありませんでした。

The History of the Laws of Football の第 2 条 TACKLE に次のように書かれているのが Law としての最初の記載です。第 2 段に当時の状況が述べられています。

1866. In Laws of Football as played at Rugby School, this was known as "Maul outside goal line, and takes place when a player holding the ball is held by one or more players of the opposite side, and if he cannot get free or give the ball to some other of his own side (not in front of him) who can run with it, he calls "have it down." There was no mention of what "held" meant.

It was quite the custom for the opponents to call "maul him" or "pull him over" or "get the ball from him" or "hack him over" until he put the ball down.

ボールを持って 走ることによって running handling game ラグビーが誕生しました。

そして、ボールを持っていて相手に捕まると、ボールを放して「ボールを放した」告げるわけです。捕まったらボールを放すということ即ちボールを equal condition にするという事は、ボールを持って走るという球技の大基本です。equal condition から新しい戦いの始まりです。一端獲得したボール所有権をいつまでも自チームのものにしつづけようとするのは普通のこととはいえ、基本に逆らうことになり、混戦のもとになります。

ボールを持っていて相手に捕まり、ボールを放さないと、数人に組みつかれたり、引き倒されたり、強引にボールを奪いとられたり、ボールを持って倒れでもしたら蹴られるなど大変荒っぽくされたようです。

ボールを持って走ってくる相手に対する対抗策の第一は持っているボールを奪い取ることです。最近では全く聞かれなくなりましたが、所謂「ボールタックル」です。また、ボールを抱えている腕の外側をボールごと捕まえてパスできないようにするのも有効な方法です。

条文に maul という言葉がありますが、現在のラグビー用語のモールではありません。

双方のプレイヤーが固まってボールをとりあっている組打ち合いのことです。

This "maul outside goal" was a tremendous waste of time, sometimes as much as 20 minutes, simply for the benefit of putting the ball down for the scrummage.

So in 1874 the R.U. did not adopt the "maul outside goal" but introduced the "tackle", the definition being: "When the holder of the ball is held by one or more players of the opposite side." Still there was nothing to denote what "held" meant; it was generally inferred that it had more to do with the ball than the player, "tackled with the ball" and "the ball held" and "the ball fairly held" coming into the Law: it was generally understood that "the ball fairly held" indicated that hands had to be on the ball - and both hands.

tackle は seize & stop player carrying the ball という意味のラグビー用語ですが、上記英文中盤に held に記述がなかったとありますが、held の状況によっていろいろな問題がおきました。ボールを持った者を囲む双方数人の組打ち合い (maul) が tremendous waste of time 時には 20 分ほど) にもなり解決しなければならなくなって tackle が導入されたのです。

問題は held です。それこそいろいろな状態が出現します。

「ボールを持つ」ということは両手でボールを持つという原形がしめされています。

1905 was the first time that "held" was defined; "Held is when the player carrying the ball cannot pass it."

当初、捕まってパスできない状態でタックルがタックルということでした。ボールを持って立っていてもタックル成立するという事です。

1906. The I.B. issued a circular to players and referees laying down "A player must be considered as tackled, if he on being grasped by an opponent, fall, and the ball, whilst in his possession, touch the ground."

I.B.はボールを持っている状態で倒されてボールが地面に着くときにタックルとするという回状をまわしました。R.F.U.に対するI.B.のエネルギーが現れています。

1910. The definition for "held" was cut out and the wording combined with the "tackle" reading: "A tackle is when the holder of the ball is held by one or more players of the opposite side so that he cannot pass it."

held についての議論がいろいろと続きました。激しく戦う中でのことですから当然です。

1911.the definition was added to, read : "A tackle is when the holder of the ball is held by one or more opposite side ,so that he cannot pass or play it."

パスができないという場合というのが、パスまたはプレーできない場合となりました。当時の条文に「地上に倒れてボールを放さなかった場合・・・」という言葉が見あたらないのは、1866年の条文で分かるように相当荒々しかったと同時に、捕まればボールを放すことが常識として実行されていたということです。この認識が全くとプレーが間違った方向に進んでいってしまうのです。

Note. When a player is tackled with the ball it can only be brought into play with the foot, but if a player carrying the ball be thrown or knocked over (but not tackled), and the ball touches the ground, he may nevertheless get up with it and continue his run, or pass it."

ボールを持ってタックルされてプレイヤーは足でプレーしてのみボールをプレーを戻し続けることができる。ボールを持ち運んでいるプレイヤーが、ボールを離れた所へ投げたりたたいたり（タックルされていない）してボールが地面に着いた場合彼はボールを持って立ち上がらないかぎり持って走ったりパスすることができる。

1912.It was again altered: A tackle is when the holder of the ball is held by one or more players of the opposite side so that he cannot at any moment while he is so held pass or play it."(The note was the same)

捕まって「一定の間」パスやプレーができないというように改正されました。パスまたはプレーができないのは瞬間ではなく any time という記述が加わりました。

1921.The R.U. retained the same definition, but the I.B. introduced an extra Note: " Referees frequently order a scrummage when a player has been tackled. It is not necessary to form a scrummage when a player has been tackled; any player who is on side can then play the ball with the foot including a tackled player who must immediately get off the ball."

I.B.が再び地域ノートを出して提言しました。理由は明確にタックルでない場合にレフリーがスクラムを命じるケースが屡であったからです。タックルがゲームを中断に結び付くことがおおくなるということはゲームの面白さをスポイルし望ましいことではありません。ボールからは離れなければならないプレイヤーも含めて、タックルされてもオンサイドにあるプレイヤーが足でボールをプレーすることができる。must immediately get off the ball という記述からそのことが強調されていたことがわかります。

The R.U. did not agree with the I.B. ruling re the tackled player playing the ball, and did not include this extra Note in the definition.

R.U.はI.B.に同意しないままに検討がつづけられました。

1926.With the general revision of the Laws a Law was introduced for "tackle" and the definition changed to: "a tackle occurs when holder of the ball in the field of play is held by one or more players of the opposing side, so that whilst he is so held there is a moment when he cannot pass or play the ball."

1926年に規則の大改定の中で変更されました。タックルの定義の中で any が a になって一定の間パスかプレーができない場合と確定しました。

The R.U. had always opposed the inclusion of "play the ball" and continued to oppose it, contending there was too much ambiguity as to when a player could not play the ball; the game was a carrying game, and as long as a player was carrying it he was playing the game and the ball; the result was that players went on struggling and were at the mercy of the ideas of the referee as to when he was tackled, and referees varied in opinions.

R.U.は play the ball の議論には反対してきました。プレーヤーがボールをプレーできるかどうかは非常にあいまいであるからです。ラグビーはボールを持って走る競技でそうしているかぎり混乱はないのですが、ふてに捕まることによってややこしくなり、レフリーの考えがはいるようになり、レフリーのいけんもいろいろ変化するということです。

1937.the definition was changed to "a tackle occurs when the holder of the ball in the field of play he held by one or more players of the opposing team so that whilst he is so held the ball comes in contact with the ground or there is a moment when he cannot pass or play the ball."

1937 年定義が改定されました。捕まってボールが地面につくか、ボールをパスするかプレーする間に一定の間がある場合に成立する。地面につくも touch から come in contact となりあいまいさの解決に注意がそそがれました。

歴史を振り返るのはこれくらいにして考察をまとめましょう。

約 100 年の間に以上のような変遷がありました。ボールを持って走る、相手が捕まえるというもっとも基本的活動が議論されてきました。プレーヤー観衆ともに不完全燃焼の要因となり、これに関する笛に対する不満が多いのです。held 問題は全く解決していません。ゲームは展開が継続してこそ面白いのですが、レフリーの判定も一定していません。必死で勝つことだけを考えているプレーヤーは、タックルで展開が止まることを問題にしないで、獲得したボールを取られまいと必死に戦うだけです。I.R.B.としても simpler に easier にする努力がさげばれていますが成果は見られません。

ラグビー誕生より 100 年のタックルに係わる経緯を検証して言えることは、ラグビーを楽しむために、タックルについての考えを直し、正しい姿勢を確立することが必須で、タックルが成立すればボールを放し、双方 equal condition にあるという基本理念に立ち戻ってプレーを考えることがその必須条件です。

最初、僅か 2 行で始まったタックル係わるルールが、現在の競技規則では定義に始まって次の 8 つの項にわかれています。

## 定義

### 15.1 タックル

- 2 タックルが発生しない場合
- 3 「地面に倒される」ということの定義
- 4 タックラー
- 5 タックルされたプレーヤー
- 6 その他のプレーヤー
- 7 行ってはならないプレー
- 8 どちらの側の責任か疑わしい場合

よく読んで、言葉の意味を理解し、状況をイメージしていくと、ややこしいと言われる筋道がほぐれていきます。

グローバル時代になってこんなに詳細な規則が必要ということ。そして考えてみると、始めの 100 年も後の 100 年もプレーの画期的変化はないということです。ルールの経緯に関心のないプレーヤーがほとんどですから仕方ないことです。指導者やレフリーの中にもそのような人がいることも本当に残念なことです。

aggressive tackle を攻撃的タックルと誤訳して、相手をやっつけることがよいタックルと単純に考えているプレーヤーがいることは残念なことです。aggressive とは、よい方向からタルにはいり、確実にバインドして、相手より先に立ち上がって行動する、相手の攻撃をとめ次に展開に結び付けていくタックルです。そして、タックルされるプレーヤーにも、タックルされてもアグレッシブであることがもとめられているということは大切なことです。

RFU で正しいタックルの方法について指導していますが、先行概念が邪魔してなかなか改善されません。激しく体当たりして、地面に叩きつけるように倒すやり方は、リーグラグビーの影響があると言われていますが、ユニオンラグビーでは必要のないものです。タックルについて西川ラグビーコラムをご一読いただければ幸いです。

THE RUGNY DICTIONARY by JIM WEBSTER に次のように記述されています。

Tackle: A part of the game in which you have no particular interest.  
It involves trying to provide an obstacle for an opponent to fall over.

角度を変えて眺めている点が面白いです。

simple & easy ! simpler & easier !

2010.04.11

西川 義行